



吉川英梨

新年あけましておめでとうございます。今年も『海蝶ノート』をよろしく願います。

昨年9月に発売になった『海蝶』の取材裏話を中心に書くつもりが、12回目を迎えた今号になっても、未だに執筆時のエピソードに辿り着かないという状況に、書いている本人が苦笑いです。当初はネタがすぐ尽きると思っていたのですが、いざ執筆してみると「あれも書きたい」「これも書きたい」で話題が尽きません。というわけで、引き続き今年も『海蝶ノート』をよろしく願います。

さて、昨年から続くコロナ禍で、忘年会も新年会もなかった方が多いのではないかと思います。私も、例年は出版社の担当

愛の両親の出会い「ヒメハブに咬まれる」

から忘年会や新年会のお誘いがあったのですが、今回の年末年始はゼロでした。

私は下戸な上、子供がまだ小さいうちは夜の宴席を断ることが多かったのですが、飲み会の席に出るのは実は大好きです。他の人たちの楽しそうな様子を見ると、コーラでも十分にテンションが上がります。

というわけで、新年一発目の『海蝶ノート』は、これまで何度かお誘いいただいた、海上保安官OBの方々との飲み会の席で聞いた話を記したいと思います。このお酒の席だからこそ聞いた“海上保安官あるある”は『海蝶』で結構使わせていただいているのです。

例えば、海上保安官は沖縄女性にモテモテ、という話。十一管の海上保安官が那覇の歓楽街あたりで沖縄女性につかまることを「ヒメハブに咬まれる」というんだとか。(私はここを間違えて「メスハブ」と記憶して

いつもはキリッとした海上保安官も、お酒が入ると……



しまい、拙著でも痛恨のミスイクです)

『海蝶』の主人公・愛の両親の出会い、この「ヒメハブに咬まれる」という文言を出したのがために作られたものです。

また、『海蝶』の冒頭では、藤川彰洋という海上保安庁長官が出てきます。全くの架空でモデルはいませんが、「海上保安大学校時代にペナルティを食らって草むしりをさせられた」というやんちゃなエピソードが出

てきます。こちら、某元長官の学生時代の逸話として有名なとか、なんか?!

一方、女性海上保安官の方からはなかなか辛辣しんろうな意見が。「男性海上保安官はとにかく飲むと脱ぎたがる」「すぐ尻を出すから見てられない」

エトセトラ、エトセトラ……。

この陽気で気さくな様子はまさに、映画『海猿』で描かれた海上保安官と同じですね(さすがに、いけすの中に入るようなことはないでしょう)。

訓練等では、背筋をピッと伸ばしてまっすぐ前を見つめ敬礼する硬質な姿が印象深い海上保安官。海難救助の現場を映した報道や記録映像では、命がけの任務に邁進する海上保安官の真

剣な姿がクローズアップされるだけに、お酒の席で現れるらしいやんちゃな素顔とのギャップはとにかく面白いです。

物語の作り手は常に、魅力的な主人公をどう作り上げるか、ということに頭を悩ませます。コツが二つあります。ひとつは「ギャップ」を持たせること、もう一つは「愛すべき欠点」を作ることです。

こう考えると、海上保安官はまさに『愛される主人公像』にぴったりですね。

『海蝶』はシリーズ化が決まっており、今年の秋ごろから第2作目を手掛ける予定です。実は現在執筆しているゾンビ小説『感染捜査』(今春発売予定)は、警視庁の女性刑事と海上保安官が、海からやってきたゾンビウイルスと戦う話です。今年も吉川はずっと海上保安官を書き続けることになりそうです。

海上保安庁のみならず、今年もどうぞよろしく願います。(つづく)

使っています “海上保安官あるある”